

# 秋蝶

松岡隆子

蝶 高し十一月のかく晴れて  
秋蝶の高きは風となりゆける  
たれかれの声の遠しよ柳散る  
柳散る肩の力を抜けばなほ  
だんだんに道狭くなるるのこづち  
ふいに見えつぎつぎ見えて烏瓜  
来た道をもどる団栗こぼしつつ

また同じところで迷ひ帰り花  
振り向いて誰も居ずなり帰り花  
待たれゐて木の葉時雨を急ぎけり  
潜きては潜きては鳩昏れゆける  
水の辺の昏れゆく刻を雪螢

このところ各句会が再開され俄に忙しくなった。先月後半は殆ど毎日のように出かけることになり、さぞ疲れるだろうと皆さんが心配してくださるのだが、疲れを感じることはなかった。皆さんと顔を合わせて句会をする喜びが大きかったからだろう。良い句を読み、選をし選をされることの緊張感は何ものにも代えがたい。穏やかな日常はいま始まったばかりだが、このまま続いてほしいと願うばかりだ。来年の五周年記念祝賀大会に向けて実行委員会や編集部の活動が活発になってきている。今度こそ楽しく集い合いたい。